

ジェイアール・イーストユニオン

ジャステイス新潟

不変の正義と民主化された労働運動を求めて！

ジェイアール・イーストユニオン新潟地方本部

発行者 神田 広栄

編集者 教 宣 部

平成30年 9月 5日 第 29号

〒950-0086

新潟市中央区花園1丁目6番30号大幸ビル1-B

Tel. 025-250-6553 JR 041-2490

JR東日本には真に自由で民主的な 労働組合がパートナーとして必要だ!!

鉄道会社では多くの人間が各系統・職種に分かれつつも、鉄道という巨大なシステムを動かすために専門知識と技術・技能を磨いて着実に職責を果たし、その結果として安全・安定・快適な鉄道輸送が成り立つ。しかし、**巨大な会社組織の指揮命令系統の中では、様々なコミュニケーションエラーが発生する。**現業機関と非現業機関、系統間、管理職ー一般職間、本社ー支社間、JR会社ーグループ会社ー関連・協力会社の相互間など、あらゆるところで“溝”が発生するのは常であり実態にそぐわぬ判断も起こりかねない。

だからこそ各職場で日々何が起きているか、働く者が何を感じ、どんな課題認識と現状を改善する知恵を持っているか感情も含めて汲み取り把握し、職場実態に即した建設的な提言・チェック機能を行うのが労働組合の大事な役割である。**会社組織の縦の指揮命令系統だけでは全てを把握できないのが現実であり、会社の健全な発展には真っ当な労働組合が必要不可欠なのだ。**

それは業務関係だけではない。ともに働く仲間が生き活きと働ける環境を整えるためにも、真っ当な労働組合の“世話役活動”はプライベートにも及ぶ。組合役員は職場の声にならない声を汲み取り具現化し、必要な対応を行う役目を負う。組合員も組合費を払う権利者として主体的に声を挙げる役割を担う。一人では全てできないからこそ労働組合というスクラムを組み、皆で連携・協力し助け合い支え合う。

JR連合・加盟単組は発足以来、一貫してこうした考え方にに基づき活動してきた。どこまで実践できているかは各級機関の力量の強弱もあり、足りないところもあろう。しかし、少なくともこうした考え方のもと努力し続けてきたからこそ現在の姿がある。2009年にとりまとめた『あるべき労働組合像・労使関係像』をホームページにも掲載しているが、この考え方を共有し組合員・家族と会社に向き合う努力を積み重ねているのがJR連合と加盟単組である。

「労働組合とは、人間の身体の中で例えるならば“神経”だ」という連合元幹部の話の思い出す。神経がタイムリーに“事”を感じ、信号を発し伝達し身体を機能させる。神経が機能しない身体は朽ち果てていくのみだ。きちんと機能する神経を増やし、強くしていこうではないか！ 真に自由で民主的な、建設的な運動を行う労働組合を。組合員・家族の幸せと、それと表裏一体の会社の“健全な発展”に寄与する真っ当な労働組合を！ **今こそJR連合と共に歩もう！**

＜JR連合『民主化闘争』No.1005より抜粋＞

自らを変える!! 明日を創る!! イーストイノベーション